



2017年8月2日

## 8月1日に分岐したビットコインの行方についての一考察

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 主任研究員 志波和幸

8月1日22時過ぎ（日本時間）に、仮想通貨の代表格であるビットコインは、その運用システムのなかで既存の「ビットコイン（略称BTC）」と新しくできた「ビットコイン・キャッシュ（同BCC）」の2つの仮想通貨に分裂・流通するという事態となった。

本レポートでは、2種類の仮想通貨に分裂することになった経緯をあらためて説明するとともに、8月2日正午（日本時間）までに得た情報に基づき、今後の2種類の仮想通貨の行方に関する見解（シナリオ）を述べたい。

### 【経緯】

そもそも、2つの仮想通貨に分裂する契機となった事象は「ブロック容量超過問題」である。既にその問題は2014年頃から指摘されていたが、ビットコインの運用システム関係者（コア開発者、マイニング業者、取引所運用者等）間の利害対立でコンセンサスがとれず、コア開発者が一方的にシステム変更を行うとした期限（2017年8月1日）を迎えつつあった<sup>1</sup>。

その後、紆余曲折を経て、7月23日に、特に対立していた「コア開発者」と「一部のマイニング業者」が折衷案（当該案を「BIP91」と呼ぶ）の採用で合意したことの報道を受け、8月1日の「ビットコイン運用システムの停止」や「保有しているビットコインの消滅」という最悪の事態は回避され、問題は終息に向かうと見られた。

しかし、当該折衷案にその他のマイニング業者が反発し、8月1日からビットコイン運用システム内に新たに「ビットコイン・キャッシュ（BCC）」を発行・流通する旨を宣言した。

### 【「ビットコイン・キャッシュ（BCC）」の概要】

当該折衷案（BIP91）とBCCの違いは図表1の通りである。

<sup>1</sup> 詳細は、[2017年7月14日付「IIMAの目（迫るビットコインの『8月1日問題』）」](#)をご参照。

図表 1: 「BIP91」と「BCC」との比較表

	Segwit(*)の実装	ブロック (10分毎の取引データを を格納する箱)の大きさ
折衷案 (BIP91)	実装	1MB→2MBに拡張予定 (11月15日に多数決をとる)
ビットコイン・キャッシュ (BCC)	実装しない	1MB→8MBに拡張

(※)ブロック内に収める取引データを特殊なプログラムで圧縮するもの

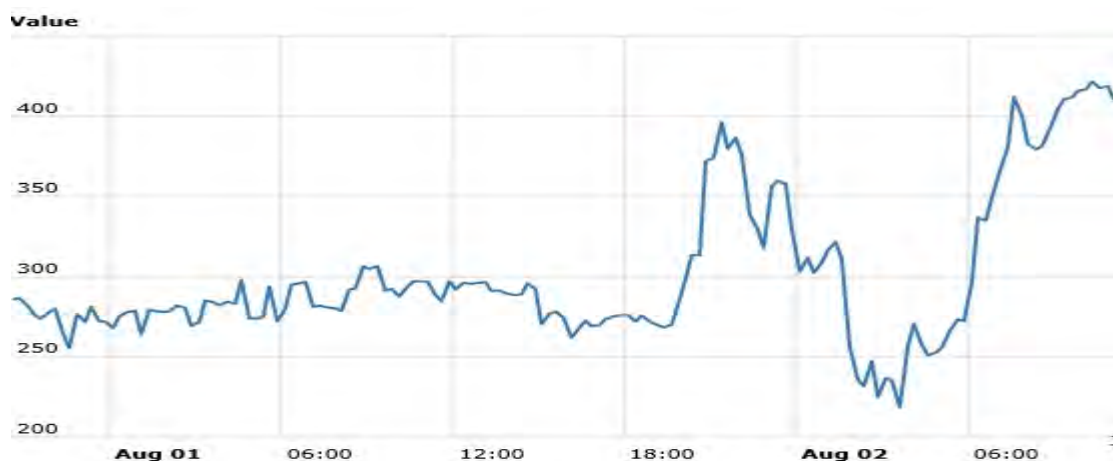
(各種資料より IIMA 作成)

「ブロック容量超過問題」の解決策としては、「10分ごとに生成するブロックに収める取引データを圧縮する、または不要な取引データは格納しないことで、より大量の取引データを格納する」か「ブロックのサイズ自体を大きくする」の2つの方法が挙げられる。前者は「コア開発者」が、そして後者は「マイナー業者」が提唱してきた案である。

7月23日には、その「折衷案(BIP91): Segwit 導入とともに将来ブロック容量を拡張する」が大半のビットコイン運用システムの関係者間で合意に達したが、Segwit 導入でマイニング報酬(現在1回当たり12.5BTC)を得る機会が減少することを懸念した中国のマイニング業者の一部<sup>2</sup>が反発し、あらたにBCCを造成した。

そのBCCであるが、7月24日の分裂宣言直後には1BCC当たり600米ドル前後で8月1日(分裂日当日)に取引されると予想されていた。しかし、分裂日当日にいざ発行したところ、中国のマイニング業者でBTCからBCCに移行した業者が当初想定よりも少数であったことに加え、BCCのマイニング作業(通常1回当たり10分)が何らかの理由により大幅に遅延しその取引決済が円滑に行われていないこともあり、BCCの価格は約400米ドルとBTC(1単位当たり約2,700米ドル)と比べ約1/6の水準で推移している(8月2日12:00(日本時間)現在)。

図表 2: 「ビットコイン・キャッシュ(BCC)」の価格推移



(出典: WorldCoinIndex より当研究所作成)

<sup>2</sup> 「ビットコイン・キャッシュ(BCC)」のホームページはこちら。<https://www.bitcoincash.org/>

図表 3：「ビットコイン・キャッシュ (BCC)」のマイニング作業に要した時間

ブロック番号	マイニング時間		前回マイニングから 要した時間	マイニングに 成功した業者
	UCT時間	日本時間 (-9時間)		
478569	2017/08/02 02:51	2017/08/02 11:51	1時間44分	?(不明)
478568	2017/08/02 01:07	2017/08/02 10:07	1時間29分	?(不明)
478567	2017/08/01 23:38	2017/08/02 08:38	1時間59分	?(不明)
478566	2017/08/01 21:39	2017/08/02 06:39	0時間03分	?(不明)
478565	2017/08/01 21:35	2017/08/02 06:36	0時間31分	ViaBTC
478564	2017/08/01 21:05	2017/08/02 06:05	1時間28分	?(不明)
478563	2017/08/01 19:37	2017/08/02 04:37	0時間45分	?(不明)
478562	2017/08/01 18:52	2017/08/02 03:52	0時間15分	?(不明)
478561	2017/08/01 18:37	2017/08/02 03:37	0時間04分	?(不明)
478560	2017/08/01 18:33	2017/08/02 03:33	0時間21分	ViaBTC
478559	2017/08/01 18:12	2017/08/02 03:12	4時間56分	ViaBTC
478558	2017/08/01 13:16	2017/08/01 22:16		BTC.com
			平均:	1時間14分

(出典：Blockchair より当研究所作成)

### 【今後の「ビットコイン・キャッシュ (BCC)」の行方】

ビットコインが分裂してからまだ 24 時間も経っていないが、既に発表されている各種情報に基づき、今後の BCC の行方について 3 つのシナリオ (当面の短期的予測) を、その発生確率とともに以下記載した。

#### 〔シナリオ 1〕 「BCC」は消滅する (確率：20%)

8 月 2 日 12:00 (日本時間) 時点の BCC の取引高は約 103 百万米ドル相当と BTC と比べ約 7% の水準に留まっている。また、マイニング作業の遅延に伴う取引決済の滞りの解消方法について、各マイニング業者から何ら公表がなされていない。仮に、当初の見込みに反し、中国の大手マイニング業者の BCC への移転・参入等がない場合、一般ユーザーは当該仮想通貨での取引の利便性を感じず、自然とそれを手放すであろう。

その結果、一般ユーザーの支持を得なかった BCC の価値は限りなく「ゼロ」に近くなり、事実上その仮想通貨が消滅する。

#### 〔シナリオ 2〕 「BCC」は「BTC」とともに共存する (確率：75%)

BCC のマイニング業者が何らかの方法により、マイニング作業の遅延に伴う取引決済の滞りを解消する可能性は十分にある。

また、8 月 2 日 12:00 (日本時間) の BCC の時価総額 (約 72 億米ドル) は、BTC (同約 447 億米ドル)、イーサリアム (同 212 億米ドル) に次ぐ第 3 位の地位を占める大きな規模となっている<sup>3</sup>。

今後、各仮想通貨取引業者が (BCC が永続的に存在する仮想通貨と判断した時点で) 顧客に保有 BTC と同額の BCC を付与し次第、その仮想通貨の取扱件数・量ともに増加することは必至である。

<sup>3</sup> 詳細は <https://coinmarketcap.com/> ご参照。

この場合、BCC と BTC は、同じ「ビットコイン運用システム」の中で、各々の利便性を競争しつつ流通していくものと思われる。

〔シナリオ3〕 「BCC」は「BTC」を凌駕し、「BTC」が消滅する（確率：5%）

「ビットコイン・キャッシュ (BCC)」のホームページに記載されているように、BTC が引き続き「ブロック容量超過問題」に伴う送金手数料の上昇や送金遅延問題を解消できなかった場合、一般ユーザーが BCC の利便性を認識し、BCC の方が優位な仮想通貨となり、反面 BTC の支持が落ちる可能性がある。

**【まとめ】**

今回の分裂騒動は、これまでのビットコインの運用システム関係者（コア開発者、マイニング業者、取引所運用者等）間の混乱について批判はあるものの、ビットコイン利用者に対し大きな不利益を与えることなく問題を収束させたことに対しては、一定の評価が出来るであろう。

反面、この分裂を機に、当該システム関係者の利害関係は解消するどころか、ますます複雑化してしまった。今後もビットコインの運用システムに何らかのストレスが加わった場合、関係者の利己心に基づき再び分裂騒動が起きうるリスクを露呈した。

ビットコインのように、中央管理者がいない分散型システムで発行・流通している仮想通貨の機能をより便利なものに改良する際、その関係者間のコンセンサスの取り方に関し重い課題があることが判明した。その課題を解決ができるか否かにより、仮想通貨全体の見通しが決まるものと思われる。

以 上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。